

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明東小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの項目においても、計画に沿って一年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。</li> <li>学力向上や特別支援教育など専門性と意識を向上させながら取り組むことができ、学力学習状況調査においては県平均を上回ることができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	進んで学び さわやかに たくましく生きる子どもの育成
3 本年度の重点目標	<p>① 全ての子どもが「学ぶ喜び」「分かる・できる喜び」を感じられる教育活動を推進し、学力の向上を図る。</p> <p>② 全ての子どもに自分や友だちのよさを認め、すすんで活動する機会【Chance】を作り、様々なことに挑戦【Challenge】を促し、過程や結果を認めることで「学校は楽しい」「成長できた」と実感【Change】できるよう成就感の向上を図る。</p>

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○主体的・対話的な学びの充実	○「協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする職員の割合を80%以上にする。	・協働的な学びの場を醸成できる課題やめあての在り方を、教材研究・児童理解の双方から探る。また、研究授業や理論研究を通して、具体的な授業の姿を確立していく。	B	・「協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をした職員は83.3%と目標値を大きく下回っている。夏休業中に学力向上についての研修を行い、本校の課題とそのための手立てを全職員で考えた。2学期以降この手立てに沿って全職員で取り組んでいく。	A	・「協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業を行っている」の質問に対して肯定的な回答をした職員は100%となり、目標を達成することができた。「学習のめあてを持ち、学習に取り組んでいる」児童が97.4%、「自分の考えを文や言葉で話したり書いたりできている」児童が94.7%と高い数値につながっている。	A	・目標達成ができている。
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分のよさがわかる」という児童を80%以上、「友だちのよさがわかる」という児童を95%以上にする。	・自分のよさに気付く、他者への思いやりの心を育てるための取組や指導を工夫する。	B	・自分のよさに気付いている児童は78.8%、友だちのよさに気付いている児童は89.5%であった。今後も、日常の活動等を通して、児童のよさを称賞したり友だちのよいところを見つけるなどの活動を設けたりすることで、自他のよさに気付くことができる児童が増えるように取組を継続していく。	A	・自分のよさに気付いている児童は88.6%、友だちのよさに気付いている児童は97.3%とどちらも上がっている。教師からの称賞の言葉かけや友だち同士での褒め褒めタイム、また、道徳の学習や人権集会、ふわふわ言葉への取り組み等により、児童自身が自他のよさに気付く、思いやりの心が育ってきたと考える。	A	・「先生からの称賞の言葉」は一生の宝物になると思います。このまま取組を継続してほしい。 ・昨年比で、自分のよさに気付いている児童の割合が向上している。今後も自分のよいところを伸ばし、他者への思いやりの心を向上していきたい。 ・気付いている子はいいますが、気付いていない子が少し減りました。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○小さいいじめ事業であっても見逃さないように、報告・連絡・相談をしようと務めた職員の割合を100%にする。 ○「友達と仲良く協力し、学校で楽しく過ごすことができている」という児童の割合を95%以上にする。	・小さいいじめ事業であっても、関係者の話し合いやケース会議を行い事実を把握するように努める。 ・児童理解連絡会を定期的に行い、職員全体で把握する。 ・児童観察や定期的なアンケートで実態を把握し、問題行動やいじめに迅速に対応する。	A	・91.2%の児童が、友達と仲良く協力し、楽しく学校生活を送ることができている。 ・定期的に児童アンケートを行い、自分の観察等で実態把握をしっかりと行っている児童には個別の支援体制を講じている。特に気になる児童に対しては、ケース会議やSSOとの相談を受けて今後の支援体制を話し合っている。また、児童理解連絡会、職員会等を通じて、職員全体で問題を把握し、見逃しをしない協力体制ができるように考えていく。	A	・アンケート等での実態把握やケース会議、児童理解連絡会、SCとの情報交換等を定期的に行った。些細な事案でも教師が把握し、関わりのある児童に話を聞いたりと、声かけなどを行ったことにより、97.4%の児童が友達と仲良く協力し、学校で楽しく過ごすことができたと回答することができた。	A	・いじめをいじめと気付く、相手の思いを自分へ置き換えることができる子が増えることを願う。 ・同じことでも言い方(言葉遣い)次第でトラブルになりやすくなったりします。 ・一番学校生活で大変なことだと思うので、継続できたらと思います。
	●◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを理解してくれていると思う」と回答した児童を80%以上にする。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・日頃の褒めや声かけなど、声掛けをしたりよいことを伝えたりする。 ・キャリアパスポートを活用し、行事ごとにふり返しをさせ、いつでも児童に自分の足跡を確認させるようにする。	・93.9%の児童が、先生からよいところを理解してもらえていると感じている。今後も、日頃からの声掛けや、よい言動をした時の称賞などを続けていく。 ・1学期はキャリアパスポートをなかなか活用できなかったが、2学期以降は行事ごとにふり返しをさせていくことで、自分の成長を実感させていくようにする。	B	・93.9%の児童が、先生からよいところを理解してもらえていると感じている。今後も、日頃からの声掛けや、よい言動をした時の称賞などを続けていく。 ・1学期はキャリアパスポートをなかなか活用できなかったが、2学期以降は行事ごとにふり返しをさせていくことで、自分の成長を実感させていくようにする。	A	・先生からよいところを理解してもらえていると感じている児童は99.1%と上がっている。日頃の褒めや声かけにより、職員の思いが子どもたちに伝わっていると考えられる。 ・将来の夢や目標をもっている児童に対して肯定的な回答をした児童は92.1%で、目標を達成することができた。行事ごとに目標をたてたりふり返しをしたりすることにより、自分の成長を実感できている。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○次の時間の準備をして休み時間を過ごすことができる児童の割合を90%以上にする。 ○進んであいさつができる児童の割合を90%にする。	・月の生活目標と関連させた指導を行う。 ・学年に応じたあいさつの指導をする。また、定期的に振り返りの時間を設け、意識付けを行う。 ・あいさつ週間を設定し、あいさつに対する児童の意識を高め、よく頑張っている児童をほめる。	B	・定期的な生活チェックでの振り返りを行ったり、あいさつ運動や学年での指導、称賞を続けていったりすることで、児童の意識は少しずつ高まってきている。アンケートでも、93%の児童が気持ちの良い挨拶をしていると答えている。ただし、十分できていると回答した児童は、66.7%であった。 ・90.4%の児童が、次の時間の準備をして休み時間を過ごすことができている。ただし、十分できていると回答した児童は、57.9%であった。	A	・毎月2回各クラスで生活チェックや振り返りを行っている。また、教師が意識して廊下や教室などで、挨拶ができていない児童を指導したりしたことにより、97.3%の児童が気持ちの良い挨拶をしていると回答した。また、十分できていると回答した児童も、71.9%と向上した。 ・次の時間の準備をすることも児童自身の意識が高まり、93.9%の児童がよくできるようになった。十分できていると回答した児童も、65.8%と向上した。	A	・生活習慣を学校で対応していただいていることに感謝しながら、学年に合った行動ができるように子どもたちも取り組んでほしい。 ・校外では防犯のためか、自分からはなかなか挨拶はしてくれない。こちらから声をかけると元気に返してくれる。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○廊下の右側歩行率を90%以上にする。	・月の生活目標と関連させた指導を行う。 ・定期的な振り返りの時間を設け、意識付けを行う。	A	・93%の児童が右側歩行を意識して実行できている。 ・引き続き、定期的な生活チェックによる振り返りや、教師による声かけ等の取り組みを行うことで、さらなる徹底を図っていく。	B	・94.8%の児童が右側歩行をしていると回答している。しかし、教師側から見ると、廊下で走ったり、走ったりする児童が多く見られること、注意しても、なかなかよくなるということがあったため、今後も指導を継続していく必要があると感じた。	B	・意識付けが大事。 ・基本的な約束やまわりを守ること、家庭・学校・地域で共有して活動につなげていければと思います。 ・校内ではルールを守らなければいけないという意識はあるが、自宅へ帰るときや友達と遊びに行くときなど、特に自転車で一旦停止の無視など危ない面がある。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する。	・定時退勤推進日の退勤時間を守られた日数を90%以上とする。 ・共通理解を効率的に行い、会議の回数や会議時間の精選及び効率化を図る。	C	・定時退勤推進日の「18時までに退勤」を守られた日数の割合は約65%、時間外勤務時間数、月45時間以上の職員が月平均7名だった。今後、退勤時間や期間外勤務時間数の上限を一律意識して業務の遂行を図っていく。 ・パソコン規手帳で共通理解を図り、連絡会等の会議の時間削減に努めた。 ・会議や研修を計画的に行い、業務の効率化を図ることができた。	C	・定時退勤推進日の「18時までに退勤」を守られた日数の割合は約66%で年間ほぼ横ばいの状態となった。時間外勤務時間数、月45時間以上の職員が月平均5.6名となり、夏以降減少した。退勤時間や期間外勤務時間数の上限を意識して業務の遂行を行った。 ・生徒指導や教育相談などに関する会議の回数が多くなり会議時間が長くなった。	B	・「教材研究に個々の指導、研修等、たくさん業務をこなされていると思います。どんなに有明東小学校の先生方が頑張っても、根本的な事務改善をしなければこのような評価は意味をもちません。」「いろいろな職業によるように、事務改善を行政機関にお願したい。」「教育委員会としても積極的に現状を報告し、改善を求めていく考えです。」「退勤時間や時間外勤務などなかなか業務内容の増加により目標達成はどこでも難しいところはあるが、現在行われている学校閉庁日など学校全体を休日にする取組はいいと思います。今後も続けてください。」

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○職員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員100%を目指す。	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催と全職員での情報共有をする。 ・必要に応じて専門家との連携を図る。	B	・「児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めたり、研修に参加したりして専門性の向上に努めている」職員は、91.8%だった。 ・「講師の都合により夏休みの研修が延期になり、校内での研修ができなかったため今後研修を行いたい」という声も多かった。 ・必要に応じてケース会議を開いたり巡回相談を利用したりして支援に当たっているが、全職員での変な情報共有が必要である。	B	・「児童の実態を把握し特性に応じた支援に努めたり、研修に参加したりして専門性の向上に努めている」職員は、92%で変化がみられなかった。また、9%の保護者が「学校は、子どもの特性に応じた教育を行っている」の項目に「あまりあてはまらない」と回答されてきたことから専門性と意識の向上が必要である。 ・特別支援の校内研修を、児童をよく知るSC(臨床心理士)を講師として3学期に行うことができ、児童対応に関して職員の共通理解が図れた。	A	・なし

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>「業務改善・教職員の働き方改革の推進」以外は、どの項目においても、計画に沿って一年間しっかり取り組むことができ、どの項目も「おおむね達成できている」以上の評価となった。</li> <li>日々の協働的な学びにつながる対話活動を取り入れた授業の実施や特別支援教育の取組など、専門性と意識を向上させながら取り組むことができた。</li> <li>不登校傾向やいじめ問題に対しては、次年度においても早期発見、早期対応を意識しながら組織的に対応していく。</li> <li>業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減、学校統合に向けた準備を並行して計画的に進めていく。</li> </ul>
----------------	---